常磐毎日新聞

日刊
夕刊 九月十二日
定價 一部金[illegible]錢 一ヶ月金[illegible]拾錢 郵稅五厘
廣告料普通一行五拾錢、場所指定一行七拾錢
日曜祝祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人 坂本 [illegible]
發行所 常磐毎日新聞社 電話 六三〇番
印刷所 常磐毎日印刷株式會社 (振替口座)東京 四〇二一〇番

新体制下に基く…
市内商業家が
報國運動への第一歩
愈よ商業報國會の組織成る
矢部講師の講演に滿堂感激

平商業報國會は市內各種商業組合を打つて一丸とする報國運動の實踐機關として縣へ手續の關係上既に設立濟とはなつて居たが未だ總會を開く機會に到達して居なかつた處愈よ諸般の準備を完了結成の實を擧ぐるに至つたので既記の如く本十二日午前九時半から平市公會堂に第一回の總會を開催各般に亙る商業者五百有餘出席、先づ皇居を遙拜して默禱の上、商業組合聯合會長の山崎與三郎氏旅行不在の爲め代つて副會長の猪狩庄平氏が座長席に着き左記綱領を決定

一、我等は商業者本來の尊き使命に鑑み商業報國の赤誠を披瀝の實踐躬行以て皇國の興隆に貢獻せんことを期す

一、我等は營利のみを主眼とする商業の舊殼を打破し公益的使命を中樞とせる新しき商業倫理の確立を期す

一、我等は商業者本來の職能を完遂せんが爲商業者の組織を整備し商業新秩序の確立を期す

會則を制定して役員を座長指名に依り左記の如く選任し

(會長)山崎與三郎 (副會長)猪狩庄平、菅本庄治(實行委員)鈴木與一、柏原幸次郎、金田昇一、關勝茂、佐川三郎、松本榮一、近藤繁治、安藤金次、鈴木彌太郎、百澤易與、眞田禮一郎、藤浪時康、金子重次、横山彰介、根本善吉、根本耕一、小野勇、山田茂一郎(顧問)菅沼平市長、渡部平警察署長、服部平商校長、諸橋貴族院議員

續いて猪狩副會長の挨拶菅沼市長、遊沼縣議の祝辭あつて十五分間休憩、十一時より報德會の實踐者たる喜多方町篤農家矢部善兵衛氏登壇、『商業報國と報德生活の體驗』と題する演題下に現時統制經濟下に於ける商業者の目指すべき方途より說き起し商科大學出身の同氏が吳服屋の自家營業を盛り起した體驗に徵し二宮尊德翁の分度主義を力說、個人主義を淸算して國休主義を形成すると雖も其處に公益を主眼とする魂を吹きこまなければ砂上に描く樓閣に比しきものであると報國精神の肝要なる點に關し二時間に亙つて縷說し聽衆に多大の感銘を與へ、山崎忠兵衛氏が會衆を代表講師への謝辭を述べて散會、茲に愈よ平市商人が新商業の倫理觀に基く力强き發足を示す結束の達成を見た

常磐線旅客列車
急行其他運轉增加

驚異的に增加して行く旅客貨物の輸送狀況に鑑み國鐵では十月十日を期して劃期的のダイヤ改正を行ふことになつたが常磐線は從來の不定期第一二〇一、第一二〇二列車上下各一本が廢止され急行二〇七、二〇八の上下列車が新設されるほか東北本線經由だつた一〇五、一〇六の普通上下列車が增加運轉されることになつた、平驛の發着時間は左の如くである

△上り(一〇六)平發午前二時三十六分、日立着三時四十五分、水戶着四時二十六分、土浦着五時二十二分、上野着六時三十四分(二〇八)平發午前五時四十一分、日立着六時三十八分、水戶着七時十一分、上野着八時五十五分

△下り(一〇五)上野發午後十時五十分、平着午前三時二十五分、靑森着午後五時三分(二〇七)上野發午後九時四十分、平着午前零時五十八分、靑森着午前十時四十五分

〝家持ち上手〟の
正しい消費生活
平友の會が主催で
堀江いち女史の講演と映畫

平友の會は家庭の實際生活に即して先づ台所から改善の實を擧げやうと、每週當番會員宅を巡回して菅間裁判長夫人指導の許に主婦の修養に努むる一方對社會的には廢品の交換會洋裁や料理の講習會等を開いて一般家庭の主婦に呼び掛け相當効果を擧げて居るが今回戰時統制經濟下に在つて米や砂糖を始め各種の日用品が切符制化せんとする折柄、合理的な正しい消費生活に依つて國策の線に順應する上に家庭婦人の重い責任を感じ東京から全國友の會中央委員堀江いち女史を招き來る廿二日午後一時より平商業の講堂に『家持上手の講習會』を開く事になつた、當日は婦人の友社原作『新生活設計圖』と題する映畫もある筈で會場整理の爲め會費十錢、一般主婦の來場を歡迎し學齡前の幼兒は同會靑年部の會員達が預つて面倒を見る事になつて居る

御祝儀相場
サンマに禁物
初陣功名に足止め

九月二十日待望の秋刀魚解禁日を前に小名、江名四倉等の五十隻の本縣秋刀魚船は目下出航準備に大童となつてをり、縣も亦出來るだけの援助を與へてゐたが今十二日縣經濟部から關係秋刀魚船主に對し〃初陣をあせるな〃の指令を發し絕對御祝儀相場を爭はぬやう警告して來た

秋刀魚の初漁は北海道サコクン島沖合五十浬でスタートされるが思ひ切つてはねあがる各魚市場の御祝儀と海の誇りから各船とも第一入港を爭ひ、しかも本縣秋刀魚船は例年第一着を占め昨年の鹽釜市場の如きは初船江名清洋丸(船主佐藤德太郎氏)を筆頭に第四着まで本縣船が占めるといふ優秀さ

今年もまた御祝儀相場獲得(一尾八錢程度、普通相場三錢から三錢五厘)をめざして張り切つた矢先のこの足止めは農林省が實施を急いでゐる鮮魚類の公定價格制定と關聯したもので、この指令から推して恐らく秋刀魚の公定價格決定は傳統の御祝儀相場をもふつ飛ばして、二十日の解禁前に實施と豫想される

東家樂燕一行が
銃後防犯の浪曲
十九日夜公會堂に

(既報)本縣聯合保護會主催の司法保護委員事業を宣傳銃後の防犯に努むる東家樂燕一行浪曲大會は來る十九日夜平區裁判所管下司法委員會、平刑務支所、平警察後援の下に平市公會堂で開かれるが當日の語り物は左の如く會員券は一圓(前賣券八十錢)で市內各區長の手を經て發賣してゐる、尙入場券賣上の半額は保護會の資金に積立られる事になつて居る

△梶川大力粗忽—東家樂燕△橘英男—同人△牛島人の赤誠—東家燕太夫△吉岡衆房—東家燕洲△忠僕直助—東家燕國△脊刺丁半—東家燕重△正直久助—東家燕太郎

新体制通報 小名

濱町役場では新体制下の町議並に役場吏員の實踐事項その他常會の結成活動方針等を具體的に示した新体制學第一課の〃新體制に就いて〃との四頁にわたるプリントを作成十一日配布した

贅澤品
回收好成績

既報愛國婦人會平市分會では〃時局下贅澤品はやめませう〃と五日來會員を總動員して各方部毎にこれが回收運動を行つてゐるが揚土小路をトップに新川町、四丁目、八幡小路、長橋町がそれ〲終了市役所へ持寄るなど頗る好成績を示しいづれも相當金額に達する模様である

石城鄕軍が
優勝の榮冠
武術の綜合成績

既報縣下鄕軍武術大會第二日目の銃劍術並に軍刀術大會は十一日午前八時から平商校庭で擧行、參加二十三聯合分會代表百六十餘名の選手はいづれも分會の名譽にかけて熱戰を展開したがその戰績は左の如く前日の射擊大會との綜合成績では結局石城聯合分會が優勝晴れの榮冠を獲得した

△銃劍術(團体)一等安積、二等西白河、三等安達(個人旣敎育)第一班—一等相馬佐藤誠、二等岩瀨渡邊源三郎、三等西白河橋本辰男、第二班—一等岩瀨相山善一、二等安積伊藤一三、三等石川三森誠(同未敎育)第一班—一等安達久永文也、二等同大原新吾、三等郡山渡邊一見、第二班—一等河沼衆子善兵衛、二等北會津坂內源一、三等東白川金澤正毅

△軍刀術(團体)一等安積、二等石城、三等福島(個人旣敎育)第一班—一等安積伊藤勝雄、二等北會津高橋齊、三等郡山玉木要、第二班—一等石城後藤五郎、二等安積堀內保、三等河沼木島忠一(同未敎育)第一班—一等相馬寺島武重、二等耶麻松野竹四郎、三等西白河添川晉三

小麥入荷
小名濱配給

小名濱商業組合ではこの程四百俵の小麥が入荷したのでどんな方法で節米に一役買つて各家庭のお台所にデビューさせようかと目下配給方法の研究中である

拾得金寄附 平市

大町中野勇吉氏は拾得金三圓三十錢が一年たつても遺失者がなくこの程還付されたのでこれをそつくり平署を通じ國防獻金した

平市會
廿日後開會

既報平市會は明十三日開會稅法改正に伴ふ豫算の更正並びに市條例設定その他を附議する筈であつたが縣からの回牒が遲れたゝめ二十日以後に延期することになつた

警防團員
增加決定

既報平市警防委員會はこの程開き警防團の擴大强化につき協議したが幹部十三名、部員九十六名、合計百九名を增員しこれに伴ふ手當金千五百八十三圓及び營繕費八百七十六圓、防空設備費七百十三圓等決定した

レンゲの
種子割當

縣では肥料不足緩和のため自給肥料を極力奬勵することになりこの種子〃レンゲ草〃を十一日各市町村へ割當たが平市は一石、石城は七三石二升割當られた

國勢調査
スタンプ 遞信省で

は十月一日午前零時現在を期して全國一齊に施行される國勢調査の記念スタンプを出すことになつたが平郵便局でも同樣のものを作り二十一日から使用することになつた

地下足袋
植田で抽籤

植田町では待望の地下足袋百九十四足と純綿手拭二百九十本來たので各部落の常會日に抽籤で配給することになつた

紹職の講演 平職

業紹介所の職業斡旋に關する講演會は來る十八日午後一時から市公會堂で開かれる

赤心慰問袋 平第

二校第六の二組生一同は眞心こめて作つた慰問袋三ケを前線に送つて下さいと今十二日市役所へ寄託した

鳴原氏敍勳 平商

敎諭鳴原四郎氏は十一日附勳八等に敍され瑞寶章を授けられた

同窓會節約 湯本

町尋高の第二十七回同窓會も一同はこの程開いた總會の費用を節約金二十圓を國防費に獻金した

篠山氏出席 縣下

靑年學校長に對する軍隊宿泊講習會は來る二十四日から四日間若松で開かれるが平市からは篠山校長が出席することになり二十三日出發する

勇士陣歿 川部村

小川出身田中爵部隊小野吉信上等兵は去月二十一日〇〇で戰病死された旨この程實家に通知があつた

植田作品展 植田

校の夏季作品展覽會は明十三日乃木祭と併せて催される

第一區體育 石城

郡第一區兒童体育大會は二十七日川部校で開催

四倉靑物商 四倉

署管內靑物商はこの程一丸となり四倉靑物商業組合を組織し役員を左の如く決定

組合長菅波寅次郎(四倉)會計吉田周太(同)評議員鈴木松吉(同)須藤茂之助(同)鈴木長壽(久之濱)箱崎忠衛(大浦)外八名

植田公休日 植田

町二業組合の公休日は十五と決定今月から休むことになつたが第三種料理屋は十日、勿來料理店組合は十四日、上遠野泉は二十日でいづれも成績良好とある

郡南の稅務 植田

方部十ケ町村の稅務主任會はこの程川部校で開き稅改正法による賦課問題につき協議した

作田經濟主任講習所へ

平署經濟係り主任警部補作田淸氏は十月早々中央の警官講習所に入ることに內定された旨この程通知があつた、後任其他は未定

平市人事

回出生

△南町三一髙木庄次郎氏二男文夫君

△鎌田町二六目下東京市靑山北町五ノ二四鈴木四郞氏三女慶子さん

回死亡

△白銀町四〇庄七氏孫早川洋治(六)君

ラヂオ

今晩の部

▼後六、〇〇 子供の時間「對話」天野雄彥、ダン道子外
▼後六、二五 講演「裁判より見たる事變下の種々相」法學博士吉田久
▼後七、二〇 鄕土に寄する言葉 成城高校敎授阿部六郞
▼後七、三〇 國民歌謠「興亞行進曲」獨唱城多又兵工外
▼後七、四〇 連續物語「日本武將譚」(第二夜)德川夢聲
▼後八、一〇 (合唱)日本放送合唱團(ピアノ伴奏)榊原直外
▼後八、三〇 講演「將來の世界經濟はどうなるか」商學博士北澤新次郞
▼後八、四〇 義太夫「さくら時雨」淨瑠璃竹本土佐太夫外

明日の部

▼前六、三〇 國史講座「鎌倉幕府と江戶幕府」(五)細川龜市
▼前七、〇一 朝の修養「乃木大將を語る」(一)陸軍少將長谷川正道
▼前九、四五 幼兒の時間 觀察話「アキノソラ」太田スミ子
▼前一〇、〇〇 家庭メモ 除虫菊を作りませう
▼前一〇、二〇 家庭の時間「近頃の毛織物」齋藤俊吉
▼後〇、〇五 管絃樂
▼後三、〇〇 婦人の時間「働く婦人の生活報告」
▼後五、三〇 中等學生の時間 名作鑑賞「士と兵隊」
▼後六、〇〇 子供の時間「仔鹿物語」(一)泉田行夫
▼後六、二五 講演「學生々活の節度」我妻榮
▼後七、二〇 鄕土に寄する言葉(錄音)株式會社萱場製作所取締役社長萱場四郎
▼後七、三〇 國民歌謠「興亞行進曲」(獨唱)城多又兵衛
▼後七、四〇 中支より
▼後八、〇〇 詩吟「[illegible]殉行」(洞簫)湯澤天眞(詩吟)伊藤長四郎外
▼後八、一三 新講談「乃木將軍の少年時代」一龍齋貞丈
▼後八、四〇 吹奏樂「星櫻」吹奏樂團(指揮)辻順治
▼後九、〇〇 時事解說
▼後九、三〇 八分間映畫「百錬日本刀」

本日の小名濱支局通信は都合に依り省略

小兒科內科
酒井醫院
◉入院隨意
(電話五五)
醫學博士酒井保
平市字南町

專門
花柳病科
婦人科
產科
▼入院隨意
井坂醫院
平市田町 電話五五九番
◉見習看護婦募集

耳鼻
咽喉
科專門
大和田醫院
平市南町一六(電話一七〇番)

喜多流謠曲と仕舞のお稽古をお奬め致します
入會隨時
喜多流 謠曲 仕舞 白土會
平市田町六九
電一二七番

磐城セメント會社特約店
釜屋商店
磐城平市五丁目
電話 九・九九
□良品廉賣に勝る商略なし
□確實敏捷は久の生命なり

鐵道指定旅館
割烹 小瀧
小名濱電話一〇三番

メガネは!
平市二丁目
玉屋

まついゆうけんでん
松井勇軒傳

第百七十三回

逃げ遲れた女は

[illegible]如何なる[illegible]かと見ればこの[illegible]九郎[illegible]でございます

「[illegible]らしや九郎[illegible]ずにお[illegible]に突いて出づるは[illegible]であらう。[illegible]不[illegible]なる[illegible]兄を[illegible]討ちに[illegible]たるのみか、[illegible]かる[illegible]へ身を[illegible]の主人[illegible]右衛門を[illegible]いたし[illegible]いたしたなどとは[illegible]大[illegible]人、[illegible]のために[illegible]く[illegible]を落さんとしたなれど[illegible]ひにも[illegible]れた[illegible]なる[illegible]ひ知れ」

と血刀を[illegible]つてかゝつた

「何を小[illegible]千[illegible]。[illegible]みとるらば[illegible]討ちにいたしてくれん」

と九郎[illegible]は[illegible]の柄を[illegible]てゝギラリ[illegible]いた一刀。[illegible]に[illegible]え[illegible]より切つてかゝつた

「己れ防げをいたすか」

と飛び[illegible]へ[illegible]化の[illegible]をして[illegible]りむずんだが。[illegible]次[illegible]きの[illegible]でございませう。[illegible]次[illegible]んで大[illegible]に斬り下ろした[illegible]は[illegible]の[illegible]天より[illegible]まで[illegible]つ二つに斬り割つた[illegible]も立て[illegible]ず[illegible]打ち[illegible]れた[illegible]に[illegible]ふの[illegible]が打ち[illegible]れて灯は消えた。九郎[illegible]に[illegible]の消えたのが天の[illegible]へ其の[illegible]を[illegible]下へ逃げ出しました。

「待て、[illegible]待て……」

[illegible]次郎も[illegible]いて[illegible]けたが[illegible]へ逃げたか[illegible]りません[illegible]次[illegible]は[illegible]になつて[illegible]の[illegible]を[illegible]すと其[illegible]には一人女が逃げ[illegible]れたかマゴ〱して[illegible]したが、[illegible]次[illegible]の[illegible]と「ア

[illegible]を不[illegible]に[illegible]が[illegible]えた[illegible]部[illegible]も[illegible]中では[illegible]の[illegible]人の力でございましたからなか〱[illegible]がならない。双方えいヤッと[illegible]合の[illegible]るどく[illegible]み合つた[illegible]べたる如く九郎[illegible]は己れの[illegible]に三十人[illegible]の[illegible]えてあるばかりか、[illegible]といへば[illegible]次の[illegible]となつてゐる[illegible]の[illegible]にも前以て[illegible]んであり[illegible]したから[illegible]くもこの[illegible]へ聞えた[illegible]次を先に六十七八人の[illegible]らず[illegible]を作つて[illegible]付けた、[illegible]の[illegible]太刀に[illegible]ひを[illegible]し出一同、[illegible]と[illegible]の[illegible]を[illegible]内か[illegible]人の[illegible]るか」

「[illegible]下さいませ」

と、わ[illegible]作つて[illegible]

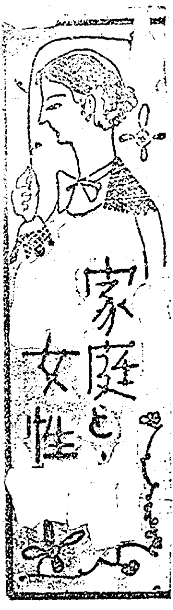
「待て女、其方[illegible]九郎[illegible]の女[illegible]であらう。九郎[illegible]は[illegible]へ[illegible]つた、[illegible]く[illegible]はぬと命はないぞ」

「いゝえ、わ、[illegible]は、ぞ、ぞ、[illegible]じません」

「己れ[illegible]、[illegible]はぬか」と一[illegible]刀[illegible]す。女は[illegible]して

「アレ[illegible]非[illegible]・い、命ばかりは[illegible]助け下さいナ」

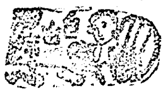
「はい、[illegible]い[illegible]ません。[illegible]」



數の世界

わが國における湖沼の數は？

三十四、最大は多來加湖（樺太）の一八〇平方キロ



き物を捨てた娘

村岡勝子

桐木の枝さきふくらみ十二月すでに若き生命を感ず（渡邊とめ子氏）

冬の頃、ある新聞歌壇上に見たこの歌がぽつかりと記憶の表へ浮び上つた。

……

あわてゝ飛び込んだ省線電車の中であつた。若い娘さんたちが五、六人かたまつてゐたのが一齊にこつちへ向けた顏の何と美しく、潑剌としてゐたことであらう、この間までの、あくどい、ぎら〳〵と眼につきさゝつて來るやうな扮飾は、街頭にも電車の中にも、家庭の中にさへも日一日と消え去りつゝある。

……

扮飾一點張りの「こしらへあげた美」のおぞましさに投げられる戒めの鞭はきびしい戰爭の空の下に淋しく立つ裸木のやうに、過飾を取り除いた女の姿は哀れだなどゝ、娘のために嘆く母親は、まさかこの時局下にあらうはずがない。若い娘たちはどん〳〵、新體制の美の創造に向つてゐる。いつまでも著飾に戀々としてゐないのが若さの強味である。

……

この數年來、銘仙であらうと人絹であらうと大抵の織物は金糸入り（紛ひもの）で、それを着るよりほかはなかつたなどと、いつまで愚痴をいつてゐようぞ。さうした過飾を愛する心の需要が生産者の供給を促したのだと反省する時、今は國民總動員強化の秋、上下こぞつて簡素になるべき機會である。

……さらに前進！「亡國病」を討つ

厚生省豫防局では結核の撲滅に積極的に邁進すべく、明年度の新規計畫を進めてゐますが、このうち注目されるのは「結核豫防は小兒から」の標語に最も力をいれることで、昨年から全國の大都市に設置してゐる小兒保養所と小兒結核豫防相談所を擴大して家庭との連絡を密接にすることゝなりました

まづ第一のねらひ

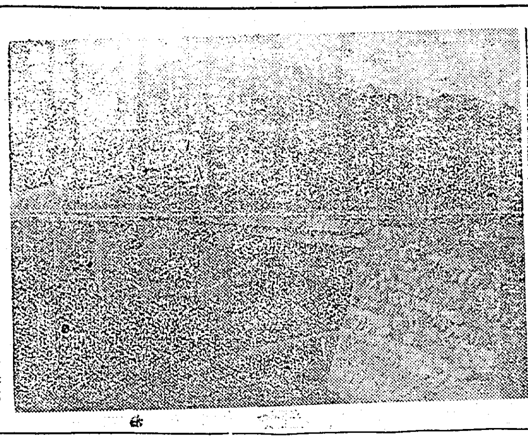
母の力をかり「保養所」と豫防相談所 全國に設ける

小兒保養所は今日までに東京、大阪、名古屋、神戸の四個所に開設され、ベッドも千五百床となり、ゆく〳〵は一萬一千床に増設する豫定でありますが、小兒結核豫防相談所は京都、福岡、八幡、川崎などに設けられる豫定で小學兒童の健康診斷を一手に引受、重症の者は療養所に、輕症の者は保養所に送り早期療養に努めて闘病の實をあげることゝなつたのです

[illegible]所と結核豫防相談所は當分大都市に設置する方針でありますが、將來は全國に開設したい希望です

右につき厚生省結核課長[illegible]技師は語る

我が國の結核死亡は青年期に最も多いのでありますが、小兒期の死も決して少くありません、統計によれば十四歳以上の小兒で、結核で死ぬ者が一箇年に一萬七八千もあるのです、また、結核は比較的長い病氣ですから青年になつて結核で死ぬ者には、少年時代に結核にかゝつた者が多いと考へられます、したがつて小兒の結核豫防を徹底させれば、ひとり小兒の結核死亡が少くなるばかりかひいては青年の結核死亡率も下ることになり、結核にかゝつたゝめの小兒や青年の體力の低下も防ぐことができませう、既に小兒期に結核豫防上適切な衛生的訓練を施すことによつて、他日小兒が成長してからも正しい結核豫防生活を營む素地をつくることにもなります。こゝに人の子の母たる人々が、結核豫防に關する正しい知識を辨へて、それぞれ愛兒の結核豫防に精通して下されば、國内の大敵結核病をしだいに防遏することもむづかしい業ではありません。それにはまた、小兒保養所あるひは小兒結核豫防所が、學校と家庭との連絡を密にして早期發見、早期診療の効果をあげたいと思ひます、小兒の結核豫防は一に家庭の協力と、家庭婦人の積極的な態度にたよるほかありませんから。



我が國民の體質低下と原因 その最新療法

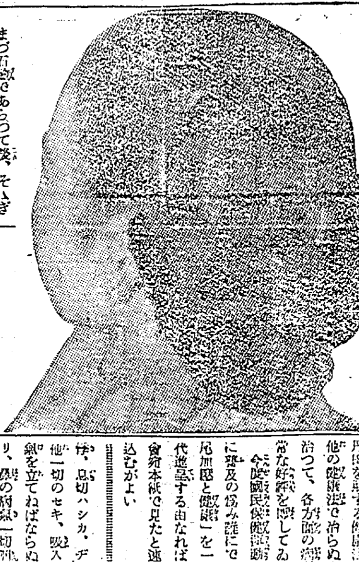
現在我が國民は世界第一の弱國であることは御承知の通りですが、そのほこるべき我國が世界の結核第一の虚弱國であるとは實に殘念なことであります。

その最大の原因は呼吸器病であつて、そのために個人的にも國家的にも非常に不幸や損害を受けてゐるのであつてその對策は一日もゆるがせにできないのであります。この怖るべき病氣の原因は何に依るものでありませうか？それは各々その生活、體質等に依つて一定して居りませんが、まづあげられるのは衛生觀念の幼稚、激務、食物、氣候等であります。この汚れた空氣の中に生活する我々は常に充分の注意をもつてこれに處して行かねばなりません。

呼吸器の弱い方について

第一に風通しと陽當りのよい住宅をえらぶこと第二食事に好き嫌ひをせず、カロリー、ビタミンを多く含んだものを攝ること、第三には精神の安定を心掛けることですが醫藥を充分に用ひることは勿論であります。然らば[illegible]と云つてもその說明を聞いてみると成程合理的だと思ふのであるが近ごろ小林原義氏の「健喉鼻」といふ療法が非常な評判になつてゐる、この「健喉鼻」療法とは、どんなものかといふと、從來の服藥は一日三回に口から胃袋へ吞んで、胃腸で消化されて吞んだ何パーセントかの藥が目的の箇所に行きつくわけでありますが、セキは食道から出るのではなく、お隣の氣管から出るのですから、セキ止め藥を胃袋へ吞んでどうして即効があるか？といふのが氏の力說する處であります。

ではこの「健喉鼻」はどんな方法でするかと云ふと、鼻孔内と口中舌の奥に塗布すればよいので、その塗布した藥は體溫で溶解して瓦斯體となりセキの發源を自分の吸こむ息で直接侵突りで死滅させるから、セキも直ぐ止り痰も出なくなり呼吸も樂になるのであります。この藥は呼吸器一切に特效があり結核、肺炎、たんせきぜんそく、百日ぜき、風邪引、カラせき、喘[illegible]、[illegible]ハシカ、ヂフテリヤ、其他一切のセキ、吸入又は鼻内に湯氣を立てねばならぬ病人又は鼻ツマリ、鼻の病氣一切蓄膿症、肥厚性鼻炎、鼻茸、其他衛生豫防にも非常に効果があります、くわしくは東京麻布區新廣尾町五ノ三三カ進堂 小林原義氏宛御照會下さい。（廣告）



毛を軟かくする洗髪法

―毛をやわらかくする洗髪法―

まづ石鹸であらつて後、そゝぎ水に酢を盃に半分ほどいれ、この中でしばらく毛をもんだ後、酢のにほひをとるために微溫湯であらひます酢を使ふのを好まぬ方は夏みかんのしぼり汁でもよく、この場合は後をゆすがずにそのまゝ乾かします、外國では微溫湯に玉子をおとしてあらつた後さらにビールでそゝぐといふ簡單な方法をもちひてゐるさうです。

鳩尾を落すと身體がメキ〳〵丈夫になる

古來 鳩尾を落すことは、保健の要諦とされてゐたが、頭山滿先生を顧問とする東京麴町區四番町六、林式健康會で鳩尾を落して丹田を練る健康法が研究され、他の健康法で治らぬ人々でも續々治つて、各方面の病弱者から、非常な好評を博してゐる。

今度國民保健運動として、全國に普及の爲め誰にでも役立つ「鳩尾加壓と健康」を一家一冊限り無代進呈する由なれば希望者は林式健康會宛本紙で見たと速刻ハガキで申込むがよい

…齒を磨くなら…

齒は縱に筋目がついてゐるのですから、横に磨くとは効果少く齒ようじをたてに使ふのがいゝのです、それは齒袋ばかりみがいて齒をみがかないのはなほいけません。

強い太陽熱をお風呂に利用

燃料は三分の一 是非お試し下さい

一年中で最も太陽の熱の強い夏、太陽はわれ〳〵の健康になくてならぬ問題ですが、この熱はまた家庭經濟の上にも直接大いに貢獻してくれます、陽のよく入る家では冬でも火鉢が少くてすみ、燃料の經濟ですが、またこの熱を風呂の燃料節約に利用する方法もあります、まづ石油カン八個乃至十個用意します、そのカンの内部にコールタールをぬり、完全に乾かします、準備はたつたそれだけです。そこでお風呂をわかす日には朝早く水をこの石油カンにくみ込んで、日當りのよい所におきます、かうして半日おくと夕方までには內部を黑くぬつた容器のために水はかなりあたゝまつてゐますからこれを風呂桶にうつしてわかしますと、ねん料はほんのちよつともすだけで熱くなります。冬季でさへかうして太陽熱を利用すれば半分のねん料ですむといはれるのですから夏などはどれほど經濟か知れません、ぜひおためし下さい

急性慢性 蓄膿症 中耳炎 淋疾 婦人病 化膿性疾患一般

內服による純正化學短期療法劑

プロゾンは純國產スルフアミンを錠となしたるものにして、スルフアミンの偉効は、サルバルサンの發見に對する偉力と對比せられ、眞に醫學界の賞讃を受く。發賣元より急送す。

プロゾン錠

定價 100入 ￥6.00 50入 ￥3.50 20入 ￥1.50

製造元 東京中野 二葉製藥株式會社

東京市芝區南佐久間町一丁目五二

發賣元 二葉衛生研究所

電芝0806、振替東京111474

暴風地帶

鐵弁北道 作

第八十一回 涙の迷ひ（三）

成程、さうでせうね、でなければ……それにしても何だつて家出したつきりで姿を現せないのでせう？」

といふおかみの言葉をひきとる樣にお君は

「まあ、おかみさん、そんな事わかつてるぢやありませんか、うか〳〵とんな處へ顏を出したりしたら、又じきつかまつてしまふぢやなくて、それ位のこと[illegible]姐さんは知つてるわよ」

「おほゝゝ、さうでしたわね。だけど、ね。お前さん、家へ來ないのは判るけれど、こちらのお兄さんの家へも音信不通といふのは、一體どういふお積りなんでせう？」

「その事よ。隆さんにキツト深い譯があつていらつしやるのよ。今頃のこのこ隆田さんの所へ近づいたりすることは危險である……と思はれて、大事をとつていらつしやるのだと思ふわ」

お君は一番隆子に近く、最近に隆子に侍つてゐるだけに、隆子の心をある程度まで、押しはかつてゐた。

隆二もお君が云つた樣に、大事をとつて、自分の所へも音信不通でゐるのであるといふ風にかんがへたかつた。

それにしても家出してからやがて半年にもならうと云ふのに手紙一本來ないと云ふ事ばかりは、隆二の心を暗くせずには置かなかつた。

[illegible]も散つた。

隆二の心は完全に憂鬱になつてしまつた。

それはある日の事であつた。

[illegible]から牧山省三の訪問を受けて隆二は意外な氣がした。

牧山は例の通りずべら〳〵それでゐてお調子のよささうな態度で話し込むのであつた。

「隆田君、今日は又君に意外なニュースを報告するためにやつて來たんだよ」

「意外なニュース？どんな…」

「どんなつて、これやア、[illegible]喜べられない事なんだ」

牧山はずるさうな笑ひを浮べながら云つた。

牧山に、さう云はれると、隆二はハッとせずには居られなかつた。

[illegible]もなく牧山の顏を見つめてゐると、既に牧山は言葉をつゞけた。

「僕は、何も好き好んでこんな事を云ひたくて、貴君の所へやつて來たのではありません。けれども隆子さんと貴君との仲をよく知つてゐる僕です。この際なことを見ては、黙つてにして置く事は出來なくて……といふと、貴君は又、何を此の野郎、要らぬおせつかいをしやあがつて……と思召さるかも知れませんが、僕は決しておせつかいでこんな事を申し上げに來たのではありません」

牧山省三は、そこで言葉を一寸切つて隆二の心をちらす樣に、顏の色を窺み見た。

「何時も、隆子のことでは君の心配を受けるね。此の前もさうだつたぢやないか」

「はゝゝゝ、その事を云はれますと、すつかり恐縮してしまひますが、あれだつて決して私の惡意から申し上げましたのではございません。私、正直そのまゝを申上げましたので……」

「うむ、それは、それはよく判つてゐるよ。判つてはゐるがね、のしあれは困つた事になつてね」

「と云ひますと……」

秋・冬物は！是非當店から（在庫豊富）

玉屋洋品店 平田町通 電話六五六番

保險は帝國へ！！ 帝國生命 平中央代理店 ◎御報次第社員參上

貝やきと〝美味しい〟みりんぼし 『鰹節製造販賣』

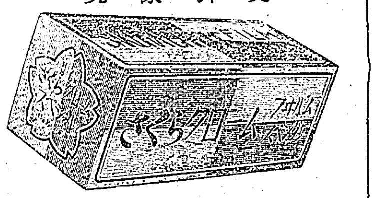
志賀盛藥商店 平市四丁目（電話二一三番） 日本生命平代理店

◇和文歐文タイプライター ◇最新事務用品類 ◇文房具一式 ◇製圖並に測量用品 ◇謄寫版並に附屬品

平市田町銀座街 東邦タイプライター代理店 東邦タイピスト養成所

藤森 電話三七〇番 振替仙臺一五〇一番 （森藤事務用品商會）

カメラ用品と現像引受



お用命は 西村屋藥局寫眞部 平2・電3

平病院（平市元共濟病院跡 電話六四一番） 院主院長 醫學博士 鈴木定藏

內科 小兒科 院長 副院長 鈴木定藏

一般外科 內臟外科 泌尿器科 皮膚科 副院長 高橋俊幸

レントゲン科 物理的療法科 院長 鈴木定藏

藥劑科 部長 吉本孝平

◎診療時間 毎日午前八時ヨリ午後九時迄（夜間診療ニ從事ス）（急患ハ此ノ限リニアラズ）

割烹 花村 平市田町 電話四番

洋酒と喫茶 麗人のサービス 氣分本位の店 タヒラ・ギンザ通り グリル バツカス 電七〇二番

提灯と國旗

鈴木醫院 平市田町 電話六一三番

吉田眼科醫院 平市紺屋町 電話六八番 醫學士 吉田久雄

開業 民刑法律事務一般 內外特許事務一般 辯護士 辨理士 增田法律特許事務所 平市字搔捐小路一 電話平六二五番 振替仙臺一〇九三五番

高久病院 院長 醫學士 高久忠 副院長 新潟醫學士 赤羽清 藥局長 藥劑師 佐竹菊雄 內科小兒科 外科花柳病科 耳鼻咽喉科 平市田町 電話五一三番 ◎看護婦至急募集

吸入用酸素 純度99% 度量衡 モノサシ ハカリ マス 計量器 體溫計 寒暖計 秤ノ取締・垂糸・修繕致シマス 關內藥局 電話四〇番 寫眞材料一式販賣致シマス

開院 外科一般 整形外科 性病科 內臟外科 肛門病科 レントゲン科 上田外科醫院 平市南町（平郵便局本局裏通り） 院長 上田耕作 電話一九二番

男女車掌募集 數名 年齡16……19 未經驗者ニテモ可 給料其他委細面談 野崎交通自動車株式會社 平市驛前 電三四三・三四〇

產科婦人科專門 根本醫院 平市南町（入院臨時）【電話三四番】